

平成31年度 福寿小学校研究構想図

【学校の教育目標】

豊かな心を持ち たくましく実践する子

〈児童の実態〉

- 算数の授業に「楽しい」と肯定的に考えている子が多く、自分の考えをつくることに楽しさを感じている子が多い。
- 学年の発達段階に応じた交流の在り方や1単位時間においてどこに交流を位置付けるかについて工夫を加えたことで、自分の考えを整理して仲間に伝えようとする事ができるようになりつつある。
- TK式学力検査の結果から、全国平均を全学年で上回ることができ、確実に算数の力を付けることができています。
- ▲学習状況調査の結果から、活用力を問う問題ができない。
- ▲計算力などの基礎的な学力が定着していない児童もあり、個別の指導を要する児童がいる。

〈市教委の方針と重点（教科指導）〉

- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる
 - ・指導内容の系統性、発展性や児童の発達段階を踏まえ、一人一人の学力・学習状況を把握し、指導目標と評価規準を明確にして、指導内容の重点化を図る。
 - ・児童の発達の段階に応じた各教科の学び方を身に付け、学び合う学習集団へと質を高めるとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。
- 〈算数科に求められる授業改善〉
- ・ねらいの明確化 ・指導計画の工夫
 - ・本時の授業展開と手立て
 - ・児童の実態把握と個に応じた指導

【願う児童の姿】

- 数学的な見方・考え方をはたらかせ、自分の考えを整理して表現する子
- 仲間と共に学び、できた喜び（「分かった」「説明できた」）を味わえる子

【研究主題】 自分の考えをもち学ぶ楽しさと充実感を味わう子の育成を目指して

～数学的な見方・考え方をはたらかせ、自立的、協働的に学ぶ算数科の授業づくり～

【主題設定の理由】

算数アンケートでは、「算数が楽しい」と答えた児童が大半をしめたものの「算数が楽しくない」という児童もあり、その理由の一つに「問題の意味が分からなかったり、考えがもてなくて楽しくない」と挙げていた。そこで本校では、数学的な見方・考え方をはたらかせ、意欲的に学ぶ子を育てるために、事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する活動を、1単位時間の学習過程の中で位置付けることで、どの子も自分の考えをもち学習に取り組めるようにしていきたい。昨年度までの研究では、「①問題を理解し、本時の課題を明確にすること」、「②見通しをもって個人追究に取り組めるようにすること」、「③自分の考えを相手に分かるように伝えること」について、実践を積み重ねてきた。しかし、仲間の考えを聞いて考え方が変容したり、よりよい方法をさらに考えるといった「深い学び」にはまだ至っていない。そこで、本年度は、自分の考えを整理し、数学的な表現を用いて仲間と伝え合う活動を通して、さらに考えを深め、できた喜びを味わう児童の育成を願い、上記のような主題を設定した。

【研究仮説】事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、その問題について自立的・協働的に解決する数学的活動を工夫し、個に応じた指導・援助の在り方を工夫することで、主体的・対話的で深い学びにつながり、できた喜びや充実感を味わう児童が育つ。

【研究内容】

1 数学的な見方・考え方をはたらかせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

2 自分の考えを整理し、伝え合う活動を位置付けた単位時間における指導の在り方

3 深い学びを生み出す指導・援助のあり方

【研究方法】

①単元で育てたい「数学的な見方・考え方」の具体を単元指導計画の中に位置付ける。

①課題解決へ向けて、見通しをもって個人追究に入るための手立てを工夫する。
②自分の考えを整理して、数学的な表現を用いて仲間と伝え合い、考えを深めるための手立てを工夫する。

①算数アンケートを実施し、児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導・援助の在り方を工夫する。
②見届けの視点を明確にした評価の仕方を工夫する。